

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

学校法人青森田中学園
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人青森田中学園 青森中央経理専門学校並びに青森中央文化専門学校は
令和7年度第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので報告致します。

●開催日

令和7年 9月 3日 (水) 14:00~15:10

●開催場所

本学園9号館（学術交流会館）3階 934教室

●企業等委員

栗原 良明 氏 (ライフプランニングフォース 代表)
永井 栄 氏 (医療法人白鷗会 まちだ内科クリニック 事務長)
高坂 麻子 氏 (公益社団法人 青森観光コンベンション協会/ねぶたの家 ワ・ラッセ 副館長) 欠席
今 勉 氏 (青森市横内町内会 町会長)
樽澤 康太 氏 (株式会社ティエル・マネジメント/青森中央経理専門学校卒業生)
今 順司 氏 (青森県アパレル工業会・株式会社蓬田紳装 取締役工場長) 欠席
泉谷 里奈 氏 (株式会社 アプティマルワ/青森中央文化専門学校卒業生) 欠席

●学校側

石田 憲久 (学校法人青森田中学園 理事長、
青森中央経理専門学校 校長、青森中央文化専門学校 校長)
櫻庭 肇 (学校法人青森田中学園 法人本部長)
鈴木 伸吾 (青森中央経理専門学校 主任教諭)
大水 咲良 (青森中央文化専門学校 主任教諭)
塚本 大広 (青森中央経理専門学校 教諭)
佐藤 紋子 (青森中央経理専門学校 教諭)
竹洞 春佳 (青森中央文化専門学校 教諭)
久慈 雅世 (青森中央文化専門学校 教諭)

●次第

1. 開会あいさつ

学校法人青森田中学園理事長

青森中央経理専門学校校長

青森中央文化専門学校校長 石田 憲久

2. 出席者（委員）紹介

→資料に基づき、出席者を紹介

3. 規定・位置づけ

→資料に基づき、規定・位置づけを確認

4. 令和6年度自己点検評価結果について

→概要と取り組み状況・成果について説明

○基準3 教育活動

→青森中央経理専門学校では、今年度はコロナ後初めて、1・2年生合同で東京方面への研修旅行を実施することができた。また、今年度も卒業年度の学生が対象の卒業発表において、外部聴講者の聴講をこれまでの発表会場での聴講に加え、zoomを活用しての聴講も併用した。

○基準4 教育成果

→青森中央文化専門学校では、就職率は令和7年3月末時点では100%であった。また、今年度の退学者数は3人であった。青森中央経理専門学校では、就職率は令和7年3月末時点では90.0%であった。今年度の退学者数は1名であった。

○基準6 教育環境

→今年度はパソコンの入替更新を行い、学習環境を整備した。

○基準7 学生の募集と受入れ

→青森中央文化専門学校では、令和7年度入学者数は11名であり、令和6年度入学者数より減少した。なお、令和7年度入学者のうち、指定校推薦による入学者数が11名中6名であった。青森中央経理専門学校では、令和7年度入学者数は15名であり、令和6年度入学者数より増加という結果となった。なお、令和7年度入学者のうち、指定校推薦による入学者数が15名中11名であった。

○基準10 社会貢献

→青森中央経理専門学校では、8月に青森県総合社会教育センターでのパソコン講座を実施した。また、11月には公開講座「長期・積立・分散 NISAを活用した資産形成～生活者ひとりひとりのいい人生をつくる～」も実施することができた。

5. 質疑応答・意見交換

→委員の皆様から自己点検・評価報告書に対する質問・意見等を頂く

委員からの質問・意見等	質問・意見等に対する回答
卒業後1年以内に退職したという事例はあるか。また、卒業後の就職状況については把握しているのか。	そのような事例はあり、卒業後の就職状況については、例えば学校を訪問してくれた卒業生に他の卒業生の近況を聞くなどして、卒業生の就職状況の把握に努めている。
学生との面談機会を増やしコミュニケーションを取ることが自己目標をはっきりさせ、就職後の離職率を下げるここと、ひいては学校の社会的評価を向上させることにも繋がるものではないか。	少人数制を活かし、学生と密なコミュニケーションを取るよう努めたい。
少子高齢化でなかなか人材が集まらない中で、こちら（企業）側も人材確保に苦労している。社会全体的な課題なので仕方ない部分もあるが、何か対策を考えなければいけないと感じている。	数の問題もあるが、質も大きな差があると感じている。学生を見ていると、授業内容に対する理解度に開きがあるため、理解力が乏しい学生については、例えば放課後指導や補講を行う対応をするなどして、質向上を図っている。
重点目標での、「専門性の高い「業界」への100%内定」とあるが、業界にこだわらず専門分野以外の業界への就職があってもよいのではないか。	あくまで目標は業界就職率100%であるが、本校は専門学校でありながらも多様な授業を行っている。様々な業種に順応できる人材の育成に努めており、学生本人が納得できるようなゴールを目指して取り組んでいる。
卒業生1人1人の動向を追うのは困難かと思う。卒業後のフォローのために同窓会のような集まりを催してはどうか。	同窓会は開催していないが、青森中央文化専門学校では、ラフな形式でのリモート近況報告会を開催しており、卒業後の動向の把握に役立てている。
SNSの活用状況はどうなっているか。	青森中央文化専門学校では、主にInstagramを活用している。実際にSNSを使って発信することで、高校生に本校の情報を伝えることができていると感じる。

6. 次回日程（案）

→資料に基づき、次回日程（案）について説明

7. 閉会挨拶

学校法人青森田中学園法人本部長 櫻庭 肇

以上をもって、終了した。